

進捗状況の概要

本補助事業の平成 27 年度は、次の 5 項目を目的とした。(1) 本学のカリキュラム改革をスムーズにスタートさせるために、平成 28 年度の学年暦、時間割策定とルーブリック等の評価システムの導入を行う。(2) 国内外のインターンシップと留学先の拡充のため、学生の受け入れ先を訪問・調査する。(3) 地域と連携するための組織「Awesome Sasebo! Project 推進室」を学内の国際交流・地域連携委員会のもとに設置する。(4) 地域住民やプロジェクト実施先、行政機関などから構成される「Awesome Sasebo! Project 推進委員会」を設置する。(5) カリキュラム改革や地域開発・貢献を専門分野とする講師を招聘しての FD/SD を開催するとともに、外部の研究会等に参加し、教職員の資質を高める。

この目的の達成のために、事業推進の中核に置いた 6 つの柱をもとに進捗状況を詳しく説明する。

① 教学改革

平成 28 年度に 8 タームの学事暦を展開する国際コミュニケーション学科で、大幅なカリキュラム改革を行った。その中で平成 28 年度から導入する地域関連科目「Awesome Sasebo!」を I～VII まで 7 科目を新設した。また、全学共通科目として「Awesome Sasebo!」を開講するために半年かけて調整を行ったが、資格要件に関わる学科での新たな開講科目の調整が難しかったため、各学科で地域理解を深める地域関連科目を開講し、平成 29 年度に全学共通科目としての「Awesome Sasebo!」科目を開講することとした。ルーブリックについて、10 月に先進校の知見を収集し、試験的に国際コミュニケーション学科の「比較文化」の授業で取り入れた。そして平成 28 年度からは全教員が最低でも 1 科目はルーブリックによる評価を行うことを決定した。

② 学生の活動

「Awesome Sasebo! Project」として食物科が 7 件、保育学科が 3 件、国際コミュニケーション学科が 6 件の地域活動を行った。またカナダに 14 名、韓国に 7 名、イギリスに 5 名、スイスに 1 名、フィジーに 1 名の学生が留学した。インターンシップについては、国内のハウステンボスで 18 名、海外ではニュージーランドで 4 名の学生が行った。これらの学修成果を報告するために「Awesome Sasebo! Project 推進委員会」の委員を招き、2 月に成果報告会を開催した。

③ 学修成果の測定と分析

学修成果可視化テストを全学科全学年対象（留学生を除く）に行い、1 年生 193 名・2 年生 200 名が受験した。また、英語力測定テストを 1・2 年生の 80 名が 2 月に受験した。その結果、リテラシーとコンピテンシーからみる学修成果と英語力の現状が明らかになった。学科・専攻ごとに学生への解説会を実施し、学生たちは自分自身の強みと弱みを知り、1 年生は次年度の学修活動の目標設定に、また 2 年生は卒業後のキャリアにおける目標設定に生かした。

④ 学外実習先・留学先との連携

国内の新規インターンシップ先を大阪・熊本・沖縄で 6 件、海外の新規インターンシップ先をオーストラリア 1 件、新規留学先をイギリス、オランダ、スペイン、フィンランド、イタリア、アメリカ、カナダ、韓国で 9 件開拓した。そして高等教育関係者、行政等幅広いステークホルダーと本学教職員で構成する「Awesome Sasebo! Project 推進委員会」を設置し 10 月と 2 月の 2 回委員会を開催した。

⑤ 教職員の資質向上

学内で全教職員を対象に教学改革に関する 5 回の FD/SD を行い、学外の FD/SD については、9 回 24 名が参加し、先進校視察を国内外併せて 5 か所、18 名が参加した。

⑥ 評価体制の確立

月に一回程度開催する学長、学科長、専攻長、事務局長、国際交流・地域連携委員長等で開催される運営会議で随時 AP 事業の進捗状況について報告した。また本学の運営会議構成員と本学のステークホルダーで構成された「Awesome Sasebo! Project 推進委員会」を 10 月に発足し、10 月と 2 月の 2 回会議を行い取り組み内容について評価を受けた。